

藤枝市「道の駅(仮)かりやど」

基本構想

令和5年3月



目次

1. はじめに	1
(1) 藤枝市「道の駅（仮）かりやど」基本構想の目的	1
(2) 広域交通ネットワーク	2
(3) 上位計画における道の駅整備の位置付け	3
(4) 藤枝版ローカルSDGsの推進	4
2. 仮宿地区のまちづくり	5
(1) 藤枝市「道の駅」全体構想における「道の駅（仮）かりやど」の位置付け	5
(2) 道の駅をゲートウェイとした周辺まちづくりの推進	6
(3) 食と農のアンテナエリア各ゾーンの取組	7
(4) 地域特性を活かした防災体制の拠点化	8
(5) 歴史・自然環境の保全と魅力の活用	9
3. 道の駅整備コンセプト	10
4. 道の駅導入機能の方針と整備施設	15
(1) 機能の方針	15
(2) 休憩機能	16
(3) 防災機能	18
(4) 情報発信機能	18
(5) 地域連携機能	19
(6) 地域支援機能	20
5. 道の駅設置場所	21
(1) エリアの検討	21
(2) 施設計画の方向性	21
6. 道の駅の概要	22
7. 道の駅の整備・管理運営手法	23
(1) 道の駅の整備主体及び整備手法	23
(2) 管理運営方式	24
(3) 管理運営主体の比較	25

1. はじめに

(1) 藤枝市「道の駅（仮）かりやど」基本構想の目的

道の駅は現在、人・モノを呼び込む観光・交流の場、そして地域づくりの拠点となる「地方創生の場」へと発展し、道の駅そのものが目的地になるほか、防災や福祉、文化芸術などの様々な機能集約の拠点として、また地域コミュニティの拠点、さらには雇用創出、地域経済の活性化などに貢献する拠点となっています。

藤枝市（以下「本市」という）では、既設の道の駅のさらなる有効活用と新たな道の駅の整備を推進し、それぞれの道の駅の機能分担と有機的連携のもと、中山間地域を主とする北部地域（国道1号藤枝バイパス以北 以下、「北部地域」という。）の諸課題を解決して持続的な地域づくりを進めるために、令和3年に藤枝市「道の駅」全体構想を策定しました。

またこの全体構想において、新たな道の駅を整備することで、新たな地域づくりへの高い効果が見込まれるエリアとして「仮宿地区」を選定しました。

この仮宿地区に設置する新たな道の駅の基本コンセプトや方向性等をまちづくりや立地特性などを踏まえて幅広く検討し、仮宿地区や北部地域はもとより、本市全体の活性化に繋げていくことを目的として藤枝市「道の駅（仮）かりやど」基本構想を策定するものです。



仮宿地区（国道1号藤枝バイパス広幡IC周辺）

（２）広域交通ネットワーク

本市は、東京と名古屋の間、そして静岡県のおおぼ中央に位置し、JR 東海道本線や東名高速道路、新東名高速道路、国道1号藤枝バイパスなどが市内を東西に貫き、東海道ベルト地帯の交通の要衝となっています。また富士山静岡空港にも隣接するなど、陸・海・空に開けた広域交通アクセスが整っており、中心市街地から1時間強で東京にアクセスが可能です。

北部地域には、新東名高速道路の藤枝岡部ICがあり、国道1号藤枝バイパスが横断していることから、広域アクセスの良さを活かした広域観光周遊ルートの形成や都市間ネットワークの充実などにより、更なる活力と賑わいの創出が期待されています。



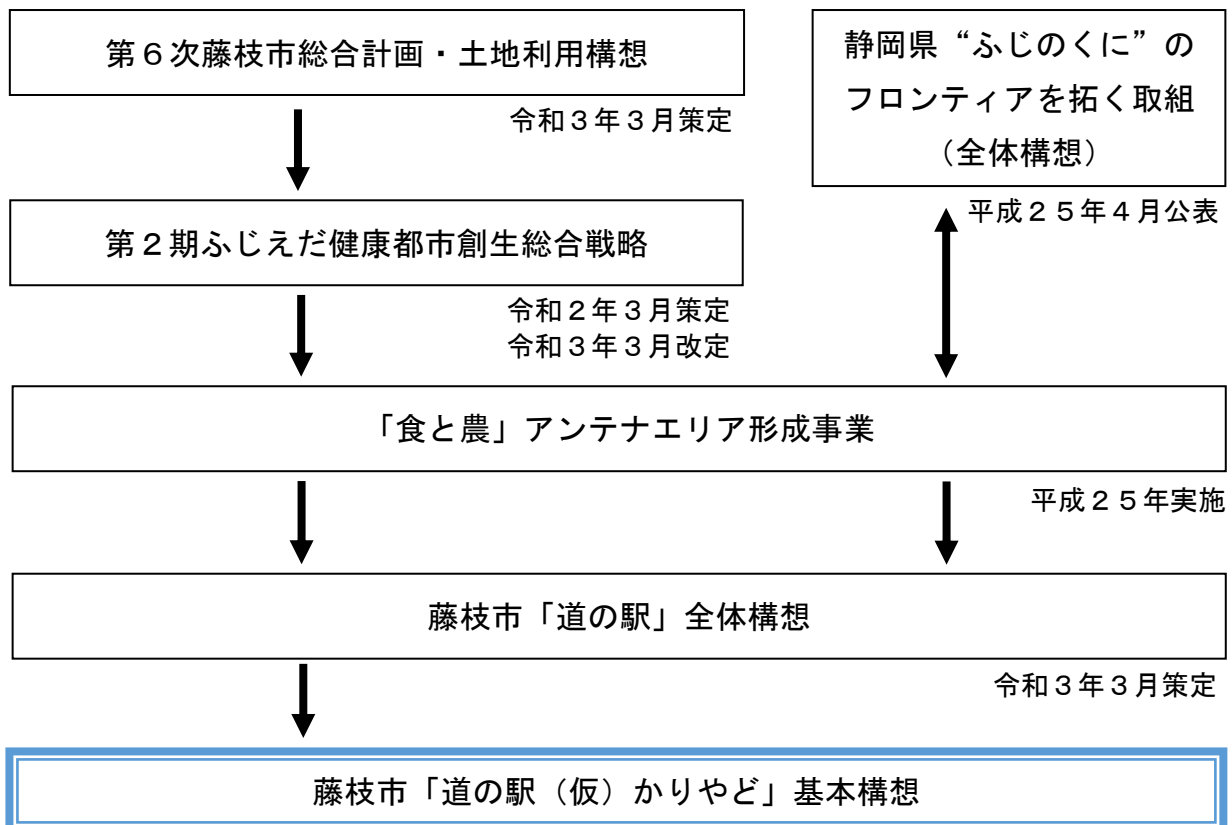
藤枝市の位置

（３）上位計画における道の駅整備の位置付け

第6次藤枝市総合計画では、「“幸せになるまち” 藤枝づくり ～まち・自然・文化と共生 未来へ飛躍～」を基本理念とし、基本目標である「魅力と活力、持続力ある地域がつながる藤枝づくり」の実現を図るため、その主要施策のひとつに「観光・交流拠点「道の駅」づくりの推進」を位置付けるとともに、「土地利用構想」においても北部の「新産業・交流誘導エリア」の拠点として、道の駅の形成を位置付けています。

また「第2期ふじえだ健康都市創生総合戦略」では、「“まち”と“ひと”が元気な健康都市・藤枝」を目指すべき姿とし、基本方針に掲げる「コンパクト+ネットワークのまちを創る」及び「ひとの流れを創る」の中で、「道の駅整備事業(瀬戸谷地区、仮宿地区)」を位置付け、更に「産業としごとを創る」の中では、「食と農」アンテナエリア形成の推進の具体的な事業として、「道の駅の観光施設整備」を位置付けています。

これら上位計画と合わせて、新東名藤枝岡部IC周辺は、静岡県ふじのくにのフロンティアを拓く取組において、交通の要衝としての広域アクセス性を活かし、地域資源である「食と農」を核とした生産拠点及び観光交流拠点となる広域物流施設や農家レストラン、生産型市民農園等の整備促進を位置付けています。



（４）藤枝版ローカルSDGsの推進

国際社会の共通目標であるSDGsに対する地方自治体として取組姿勢を示した本市独自の「藤枝版ローカルSDGs」を本基本構想の実現を通じて達成していきます。

【藤枝版ローカルSDGsの17の目標のうち本基本構想に関連の深いもの】



【藤枝版ローカルSDGs】

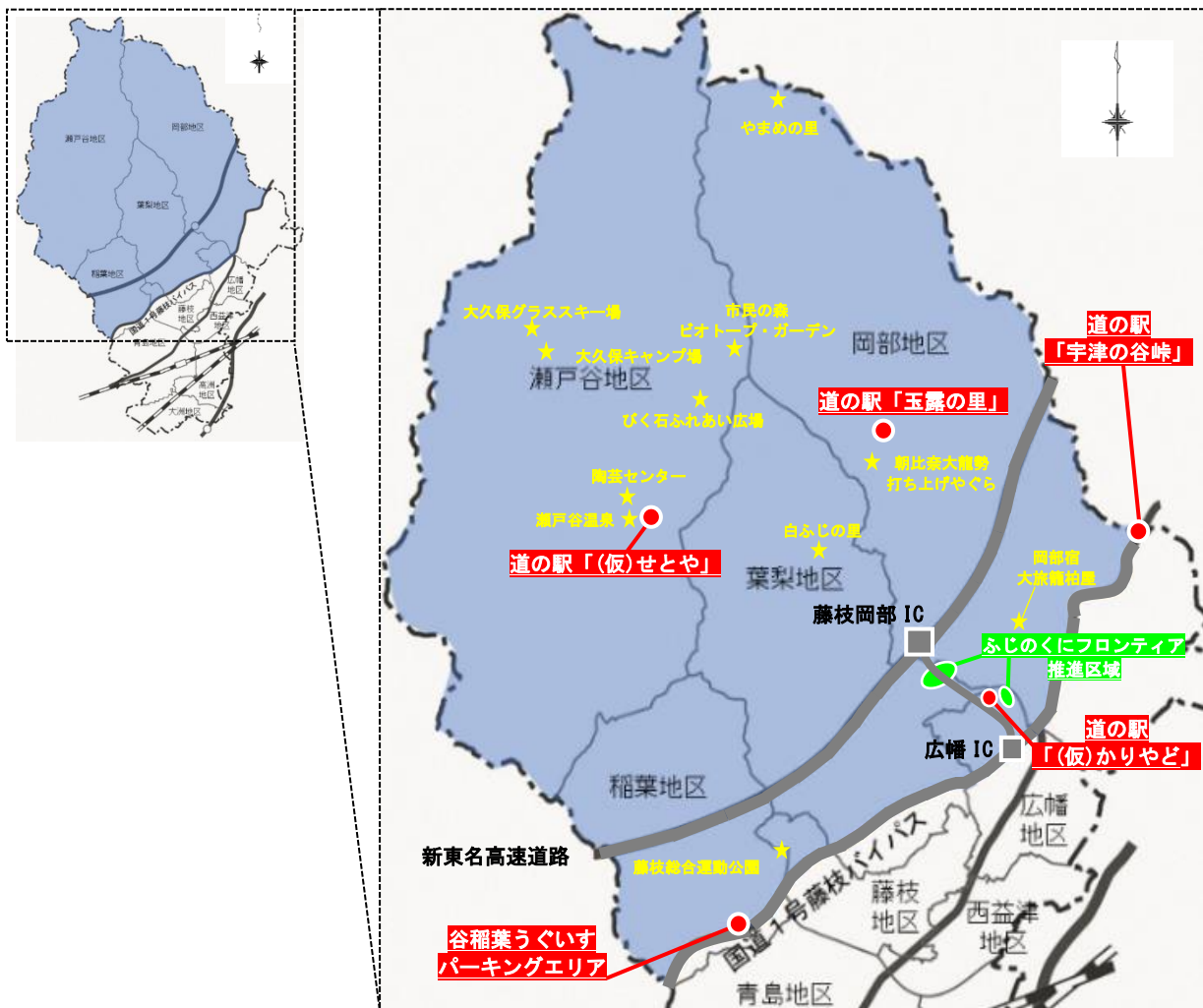


2. 仮宿地区のまちづくり

（1）藤枝市「道の駅」全体構想における「道の駅（仮）かりやど」の位置付け

全体構想では「山あいを彩るおもてなし共創拠点網の形成」を理念とし、北部地域の特性やまちづくり構想、既設の道の駅やパーキングエリアの位置・機能に配慮して、新東名高速道路と国道1号藤枝バイパスを連結するロングランプに接する交通の要衝であることを活かし、（仮称）クリーンセンターの附帯施設建設用地を新たな「道の駅（仮）かりやど」の整備箇所として選定しました。

「食と農のアンテナエリア」の一拠点として、地域ならではの「食と農」を核とした地域情報の発信や地域間交流の推進、また地域産業の活性化を進めるとともに、水害や土砂災害のハザードエリアを含まないという立地特性を活用した広域防災の拠点化を図り、「観光・防災のゲートウェイ」を目指します。

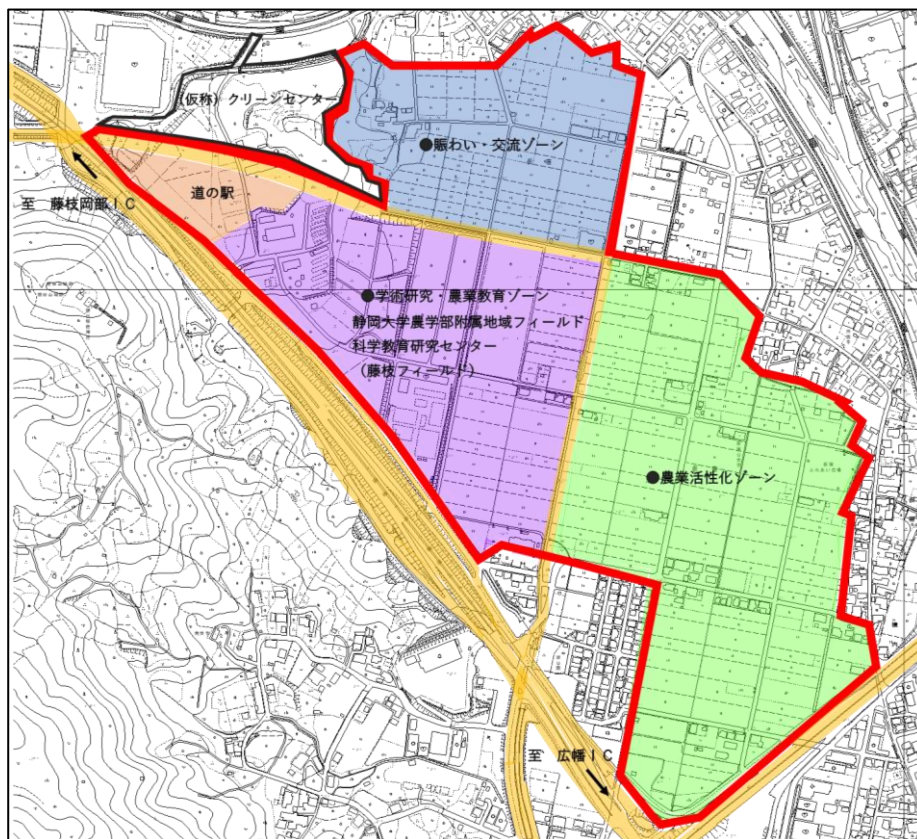


藤枝市北部地域 マップ

（２）道の駅をゲートウェイとした周辺まちづくりの推進

当該地区は、（仮称）クリーンセンターの整備と併せて地域循環共生型の環境に配慮したまちづくりを進めながら、優良な農地や豊かな田園風景、広域インフラによる優れた交通利便性を活かした「食と農のアンテナエリア」として、農地の集積・集約化による大規模農業の推進と併せ、市民農園や観光農園、農産物直売所、道の駅の立地を進めることとしています。

そこで、エリア全体を「農業活性化ゾーン（大規模農業経営体等の誘導による6次産業化の促進）」、「賑わい・交流ゾーン（生産型・滞在型農園の整備による観光・交流の促進）」、「学術研究・農業教育ゾーン（産学官連携による農業振興課題の克服等）」に分け、民間活力導入によりそれぞれのゾーンが有機的に連動・連携して相乗効果を高め、「道の駅」を“広域からの玄関口”とします。そして市内、近隣市町の方のもとより、東京圏や中京圏のファミリー世代をターゲットとして周辺の観光資源等の情報発信をすることで、大きな人の流れを呼び込み、回遊させるまちづくりを進め、域内経済の好循環の創出、交流人口の拡大、周辺地域全体の発展に繋げていきます。



食と農のアンテナエリア

（3）食と農のアンテナエリア各ゾーンの取組

① 農業活性化ゾーン（農業経営体の誘導による6次産業化）

当ゾーンでは、平成29年に整備したオリーブ園において年々収穫量が増加し、これに合わせて、民間による農家レストランやハーブ園などの整備が進み、6次産業化及び観光資源化の拠点機能が充実してきました。

今後、さらに周辺の農地集積・集約化を図り、相乗効果の高い農業経営体の立地やスマート農業を推進し、多様な農の集積と地域農業への波及により持続可能な力強い農業の確立を図ります。



農家レストラン
(ENGAWA/CREA CAFE&RESTAURANT)



オリーブ園収穫体験 イメージ

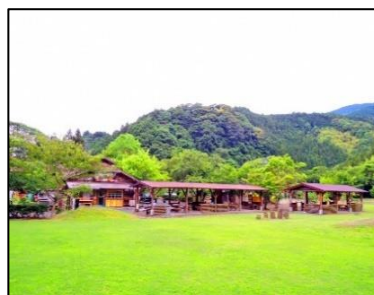
② 賑わい・交流ゾーン（生産型・滞在型農園整備による観光・交流の促進）

生産型・滞在型農園は、市民農園整備促進法に基づく区域指定を受けることで、市街化調整区域において施設整備が可能となります。

当ゾーンでは、食と農のツーリズムによる観光・交流人口の拡大、また来訪者と地域住民による交流・コミュニティの推進に向け、民間活力導入によりニーズに合わせた魅力あふれる生産型・滞在型市民農園、ドッグランなどを整備した多目的広場、観光農園の整備・運営を促進し、農地の有効活用や雇用の創出、地域経済への波及を図ります。



生産型・滞在型市民農園
イメージ



多目的広場 イメージ



観光農園 イメージ

③ 学術研究・農業教育ゾーン（産学官連携による農業振興課題の克服等）

包括連携協定を結ぶ静岡大学がゾーン内に立地させる農学部附属地域フィールド科学教育研究センター（藤枝フィールド）では、様々な果樹や作物が栽培されており、学生実習や研究、また地域の方々への体験学習・研修会などに利用されています。大学と「食と農のアンテナエリア」全体で連携し、大学が有する知見や人材、研究環境を有効に活用しながら、まちづくりに関わる民間企業も含めた産学官で新たな農業の在り方や品種改良、6次産業化や地域ブランド化などを推進し、「食と農」の新たな価値創造を図ります。



静岡大学農学部附属地域フィールド科学教育研究センター（藤枝フィールド）研究施設

（４）地域特性を活かした防災体制の拠点化

附帯施設建設用地は、新東名高速道路と国道1号藤枝バイパスを連結するロングランプに接する交通の要衝で広域アクセス性が高く、また原子力災害におけるUPZ圏外であるとともに、水害や土砂災害のハザードエリアにも含まれておらず、強靱で安全性の高い立地特性を有しています。

そこで、地域防災力の向上とともに、広域交通ネットワークなどの特性を活かした「広域防災のゲートウェイ」として、国や県と連携しながら防災・減災対策を着実に進めていきます。



防災倉庫 イメージ



非常用発電機 イメージ

（５）歴史・自然環境の保全と魅力の活用

仮宿地区周辺には、朝比奈川や朝日山など豊かな自然環境があり、また古来からの歴史文化として朝日山城跡や岡部氏住家跡、文化庁から日本遺産に認定された旧東海道の岡部宿など固有の地域資源が存在します。

今後、新たに創造する「食と農」の地域資源とともに、このような自然・歴史文化資源を守り育て、融合・ネットワークさせることにより、発信力と地域ブランド力を強化させ、観光交流の促進や地域経済への波及を進めます。



江戸時代に建てられた
「岡部宿大旅籠柏屋」



市史跡「岡部宿内野本陣跡」



朝日山城絵図

3. 道の駅整備コンセプト

基本理念は、本市の特徴と課題、目指すべき姿を踏まえ、北部地域の課題解決実現のため、第6次藤枝市総合計画に掲げる基本理念に倣って『幸せ溢れる「食と農のアンテナエリア」へ』とし、食と農に特化した機能集約を図るとともに、仮宿地区への誘客、さらには北部地域への回遊を促す情報発信をしていきます。

また道の駅整備により、広域アクセス性を活かした周辺の多様な地域資源への玄関口として、市内のみならず県内外からの誘客を図り、域内経済の好循環の創出、交流人口の拡大を実現するため、以下の整備コンセプト及び基本方針を設定します。

(基本理念) 幸せ溢れる「食と農のアンテナエリア」へ

現状

- | | | | |
|--|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・人口増加地区だが、少子高齢化は進展 ・農業者の高齢化や担い手の減少 ・耕作放棄地の発生 | <ul style="list-style-type: none"> ・周辺道路環境の向上による人やモノの流れの拡大 ・周辺地域では広域アクセス性を活かした工業団地への企業進出 | <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅整備箇所はUPZ圏外であり、水害や土砂災害のハザードエリア外 ・地域活性化に向けた地域と企業の一体的な6次産業化への取り組み | <ul style="list-style-type: none"> ・歴史ある朝日山城跡や東海道岡部宿など観光資源が点在 ・静岡大学農学部附属施設である藤枝フィールドが立地 |
|--|--|---|---|

道の駅機能を活かした地域づくりに必要な視点

視点

視点1	視点2	視点3	視点4	視点5	視点6	視点7
・生産型・滞在型市民農園事業の促進	・6次産業化及び観光資源化 ・持続可能な農業の確立	・地元、大学、企業、行政の連携の推進	・地域経済の好循環の創出 ・来訪者のニーズ調査	・地域特性を活かした防災、減災対策	・地域資源の魅力再認識と発信、ネットワークの形成	・東名、新東名、国道1号バイパスが繋がる交通の要衝

目的

- 地域資源を活かした観光交流拠点への来訪を促進する玄関口整備
- 広域アクセス性を活かした防災の拠点整備
- 農業の振興・持続性を確保する仕組みづくり
- 産学官交流の活性化に繋がる仕組みづくり

道の駅整備コンセプト

賑わいと交流溢れる 食と農の体感空間
～食と農のアンテナエリアのゲートウェイ～

基本方針

<p>1</p> <p>地域資源を活かした観光交流拠点への玄関口として来訪を促進する場</p>	<p>2</p> <p>広域アクセス性等を活かした防災の拠点整備を促進する場</p>	<p>3</p> <p>地域ブランドの創出・6次産業化の魅力発信を促進する場</p>	<p>4</p> <p>産学官交流の活性化に繋がる仕組みづくりを促進する場</p>
--	---	---	--

北部地域（仮宿地区）の活性化

基本方針1：地域資源を活かした観光交流拠点への玄関口として来訪を促進する場

2
食の安全を
守り、
持続可能な
農業をつくる

3
誰もが健康で
元気な
まちをつくる

8
力強い
地域産業と
多様な働き方
を生み出す

- 広域アクセス性を最大限活かし、市内や県内外からの来訪を促すために、道の駅周辺における「食と農のアンテナエリア」をはじめとする観光資源や地域資源と連携するとともに、北部地域の観光情報を発信し、仮宿地区はもとより、北部地域への誘客、観光振興、観光交流等を推進する施設とします。

【周辺の観光資源等】

- ・食と農のアンテナエリア → オリーブ園、ハーブ園、農家レストランなど
 - ・日本遺産 → 旧東海道岡部宿
『日本初「旅ブーム」を起こした弥次さん喜多さん、駿州の旅～滑稽本と浮世絵が描く東海道旅のガイドブック（道中記）～』
 - ・自然、歴史文化資源 → 朝日山城跡、朝日山城跡展望台、朝日稲荷神社、岡部氏住家跡 など
- 道の駅周辺の多彩な観光資源等の情報発信について、案内窓口等による周辺エリアのPRやデジタル案内板の設置など、ゲートウェイとしての情報発信機能を強化させます。
 - 道の駅整備に合わせて、食と農のツーリズムによる交流人口の拡大や観光交流の拠点づくりに向け、立地特性やニーズを反映した市民農園の整備や開設ができる生産型・滞在型農園事業を推進していきます。



観光・情報案内所 イメージ



デジタル案内板 イメージ

基本方針2：広域アクセス性等を活かした防災の拠点整備を促進する場



- 道の駅整備予定地は、交通や防災等に有利な立地特性を有しているため、地域防災力の向上とともに、災害時の避難場所や支援物資の集積場所・災害時医療の救護場所等として駐車場を活用するなど「広域防災のゲートウェイ」として国や県と連携した防災対策を進めていきます。

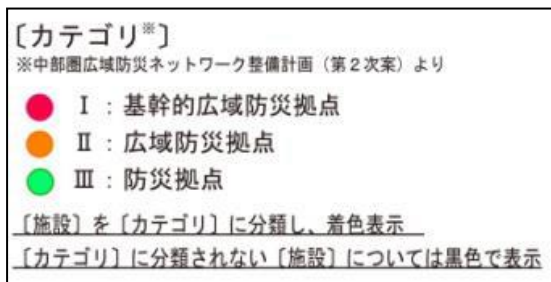
【交通における利点】

- ・当該地は、新東名高速道路と国道1号藤枝バイパスを繋ぐロングランプの近傍に位置。
- ・今後、国道1号藤枝バイパス全線4車線化及び都市計画道路天王町仮宿線、市道仮宿下付田高田線の整備により、広域交通環境が格段に向上。
- ・国土交通省が策定した「中部版くしの歯作戦」※¹における「くしの歯ルート」※²に近接。

【防災における利点】

- ・当該地は、浜岡原子力発電所のUPZ圏外。また水害や土砂災害のハザードエリア外。

- 上記のような立地特性を活かし、停電時でも24時間サービス可能な発電設備や備蓄倉庫などの設置を進めていきます。



出典：中部版くしの歯作戦 令和4年5月版（中部地方整備局 HP）

- ※1 国土交通省が東日本大震災を踏まえ、救援・救護活動、緊急物資の輸送等を迅速に行うため、緊急輸送道路を優先的に「くしの歯型」に道路啓開することを決めたもの。
- ※2 南海トラフ巨大地震発災時に、優先的に道路啓開を行う道路のことであり、step 1（広域支援ルート）、step 2（被災地アクセスルート）、step 3（沿道沿いルート）に区分される。

基本方針3：地域ブランドの創出・6次産業化の魅力発信を促進する場



○ 道の駅において、仮宿地区で進められている「食と農のアンテナエリア」において完成した6次産業化商品や地元農産物を紹介、提供する「食と農発信拠点（農産物直売所や加工体験施設、レストラン等）」の整備を進め、地域の宝である農産物の魅力を市内外に広く発信するとともに、地域ブランドの創出を図っていきます。

【食と農のアンテナエリアでの取組】

- ・平成29年にはオリーブ園が整備され、年々収穫量が増加。
- ・オリーブを核とした地域活性化に、地域と民間企業が一体となり活動。
- ・周辺の農地ではハーブ園の整備も進み、令和4年度には農家レストランがオープン。
- ・農家レストランでは、提供する料理の食材に、オリーブ園で採れたオリーブオイルや地元の米、トマト等を使用し、6次産業化商品として提供。
- ・地域おこし協力隊と農業者や企業との協力で、本市の特産品である幻のミカン「藤枝柚香（ゆこう）」や「仮宿浅蒸し茶」を使用した新たな6次産業化商品であるクラフトビール「藤枝エール」を開発。



レストラン イメージ
出典：道の駅 野沢温泉 HP



6次産業化商品
藤枝エール 仮宿浅蒸し茶

基本方針4：産学官交流の活性化に繋がる仕組みづくりを促進する場

2
食の安全を
守り、
持続可能な
農業をつくる

4
質の高い教育
と学び続け
られる環境を
つくる

17
あらゆる
主体が協働・
協奏する
まちをつくる

- 仮宿地区内に立地する静岡大学農学部附属地域フィールド科学教育研究センター（藤枝フィールド）で行われている農業研究等による成果物や、大学が地元等と協働して生産した農産物等を道の駅で紹介、販売する場、また活動する場を設け、産学官連携の様々な取組みを押し進めていきます。

【期待できる取組等】

- 大学が有する知見を活かした農産物等の品種改良・新品種開発、農産物の栽培技術に関する支援・助言による農作業の省力化・効率化などによる、地元農業における諸課題の克服。
- 大学の知見を活用した、6次産業化商品の開発などの活動促進。
- 地元農産物を活かした産学官の連携による6次産業化商品の開発。
- 道の駅において、子供たちの農業への興味を高めるような活動を行うことによる、環境や農業教育に貢献する場の提供。
- 道の駅における大学の農産物等の発表、販売により、学生に対する農産物の生産から販売までを体験する、幅広い経験を積む場の提供。

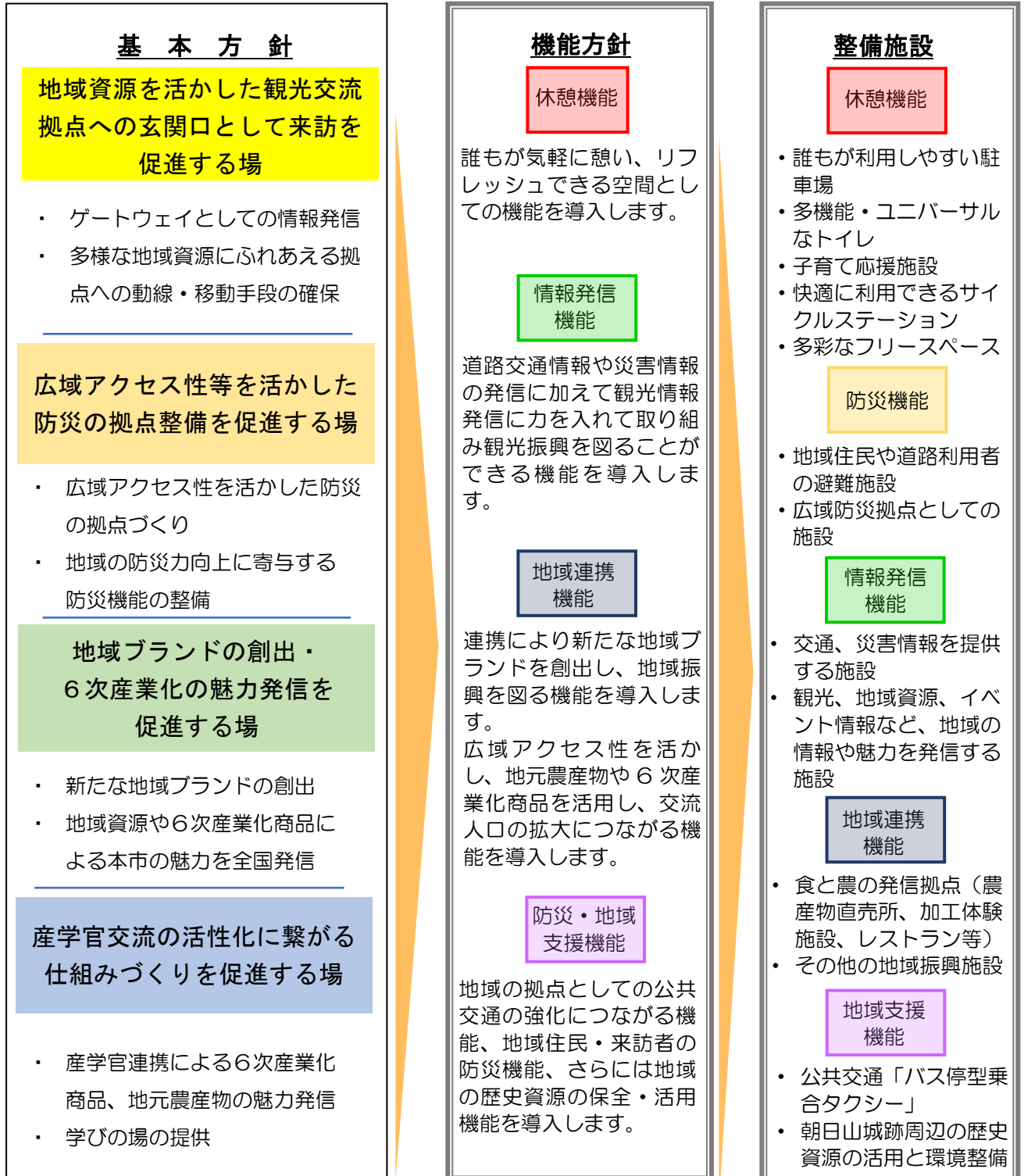


農産物販売 イメージ

4. 道の駅導入機能の方針と整備施設

（1）機能の方針

道の駅の基本方針を踏まえ、その実現のため次の機能方針に基づき、整備施設の検討を進めます。



（２）休憩機能

① 誰もが利用しやすい駐車場

- ・ 障害のある人をはじめ、子育て家族等が利用しやすいよう、屋根付き優先駐車スペースの整備や、簡単に駐車できるように動線や駐車スペースを整備します。また大型自動車や自動二輪車専用の駐車スペースを確保します。
- ・ 駐車スペースには極力段差をなくすなどバリアフリー化を図り、人が歩きやすく、車も運転しやすい駐車場を整備するとともに、サインや看板等はユニバーサルデザインに配慮します。
- ・ 今後の次世代自動車のさらなる普及に備え、道路利用者の利便性向上を図るために、充電スポットを複数整備することを検討します。



身障者用駐車 イメージ



バリアフリー通路 イメージ



充電スポット イメージ

② 多機能・ユニバーサルなトイレ

- ・ 高齢者や障害のある人、また乳幼児をもつ子育て家族も安心して利用できるよう、明るく清潔で使いやすい、24時間安心して利用できるトイレを整備します。
- ・ 周辺道路の利用者や、施設利用者の規模に応じて利用需要に対応できる便器数を整備します。



多機能トイレ イメージ

③ 子育て応援施設

- ・ 乳幼児をもつ子育て家族が安心して道の駅を利用できるよう、授乳室やオムツ換えスペースを設けます。
- ・ 授乳室は、快適に利用できる十分なスペースを確保し、衛生面に配慮したダストボックスの設置、ミルク作りに必要な給水設備の整備等を進めます。



授乳室 イメージ

出典：道と川の駅花ロードえにわ HP

④ 快適に利用できるサイクルステーション

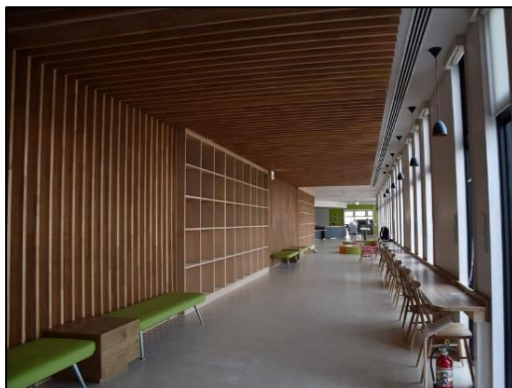
- ・ サクリストのための休憩場として、自転車の駐輪スペースやサイクルサポート機能を充実させます。
- ・ バスや車で訪れた来訪者が、周辺の歴史、文化や自然など多様な地域資源にふれあえるよう、レンタサイクル等の整備を進めます。



レンタサイクル イメージ

⑤ 多彩なフリースペース

- ・ 感染症対策や多様なワークスタイルに対応したテレワークスペース等の設置を検討します。
- ・ 無料 Wi-Fi サービスの導入を検討します。
- ・ 道の駅を訪れた人々が屋外でも気軽に休憩できる場所を確保するとともに、地元食材や6次産業化商品を味わえる場所としてのテラス席の設置を検討します。



作業スペース イメージ

出典：道の駅むつざわつどいの郷 HP



テラス席 イメージ

(道の駅砺波)

出典：富山県観光公式サイト

(3) 防災機能

- ・ 地域住民や道路利用者の避難場所としての役割を担うため、備蓄倉庫や防災倉庫、飲料水確保のための貯水タンク（マルチアクア^{※1}など）、災害時の電源確保のための非常用発電機等を整備します。
- ・ 駐車場には、災害時の避難場所や支援物資の集積場所、災害時医療の救護場所等としても利用できるエアロシェルターやエアータントの設置など、「広域防災のゲートウェイ」として、国や県と連携した防災対策を着実に進めます。



飲料用貯水タンク イメージ



エアロシェルター

(4) 情報発信機能

- ・ 道の駅を訪れた人に、交通・気象情報だけでなく、本市の観光地や地域資源、地元農産物、各種イベントの情報や周辺地域の観光情報等も、案内窓口やデジタル案内板等を設置するなどして、各種情報を丁寧に分かりやすく発信します。
- ・ 災害発生時には、道路利用者、地域住民、道路管理者に対して災害発生状況等の情報提供できる機能を整備します。
- ・ 高速道路等を利用して本市へ訪れた方が“藤枝市を応援したい”と共感納税していただけるよう「ふるさと納税自販機」の設置を検討します。
- ・ 日本遺産に認定された旧東海道を共有する道の駅宇津ノ谷峠との連携など、既存の道の駅との連携を図り、北部地域への回遊を促す情報発信をしていきます。



周辺施設情報発信 イメージ



ふるさと納税自販機

※1 水道管に直結して設置し、タンク内に常に新鮮な水を供給しながら建物へ給水するため、断水してもその直前の新鮮な水道水がタンク内に満たされ飲料水や生活水を確保できるシステム

（５）地域連携機能

① 食と農の発信拠点（農産物直売所、加工体験施設、レストラン等）

- ・ 地産地消の拠点として消費者や地域ニーズに対応するため、豊富な品揃えができる空間を備えた農産物直売施設の整備を図るとともに、地域の豊富な食材や6次産業化商品を味わえるレストラン等を併せて整備し、相乗効果を図ります。また旬の農産物をPRするイベント等の開催も可能な施設配置とします。
- ・ 地元農産物の生産拡大を図るため、生産者の創意工夫（加工等）が反映できる仕組み作りを進め、地域の生産者の意欲を高め、直売所への出荷量の拡大を図ります。
- ・ 豊富な地域食材を活かした6次産業化商品の開発に取り組み、地元農産物の魅力を市内外に広く発信していきます。
- ・ 隣接する静岡大学農学部附属地域フィールド科学教育研究センター（藤枝フィールド）と連携を図り、大学が収穫した農産物の販売等ができるスペースを農産物直売施設に確保し、産学官交流の拠点として地域活性化に向けて一体的に取り組み、地元農産物の魅力を発信していきます。
- ・ 令和5年2月14日「オーガニックビレッジ宣言」に基づき、県内屈指の有機農業の先進市である強みを活かした有機農産物の販売を検討し、環境に配慮した持続可能な有機農業を地域ぐるみで推進していきます。



農産物陳列 イメージ



加工品陳列 イメージ



食品配置 イメージ

② その他の地域振興施設

- ・ イベントスペース等を確保し、コミュニティ・交流の場の整備を進めます。
- ・ 道の駅周辺の各ゾーンとの連携を図り、域内経済の好循環の創出、交流人口の拡大、周辺地域全体の発展に繋がるような施設を検討していきます。
- ・ 地元住民の要望や意見を踏まえ、周辺地域も含めて、大きな人の流れを呼び込み、回遊させるまちづくりを進め、地域活性化等に寄与する施設を検討していきます。
- ・ 施設屋根を活用した太陽光発電の導入や蓄電池など環境負荷が少ない施設整備を検討します。

(6) 地域支援機能

① 公共交通「バス停型乗合タクシー」

- ・ 日常生活に必要な移動手段を確保するため、JR 藤枝駅とを結ぶ「バス停乗合タクシー」藤枝駅広幡線を仮宿地区周辺まで延伸します。
- ・ 新設する停留所からは、朝日山城跡周辺や、日本遺産に認定された旧東海道の岡部宿周辺等へアクセスでき、ハイキング等で訪れる方の利用も期待できます。



バス停型乗合タクシー イメージ

② 朝日城跡周辺の歴史資源の活用と環境整備

- ・ 朝日山への施設利用者の散策を支援するために、これまでの安全を確保した遊歩道整備に加え、道の駅と朝日山城跡展望台や朝日山城跡を繋ぐ周遊可能な歩道整備を検討し、利用者の満足度を高めるよう対応します。
- ・ 歴史や自然あふれる朝日山城跡や、富士山まで眺望できる朝日山城跡展望台では、自然体験や健康づくりの拠点となる体験プログラムを企画し、市外からも多くの方が訪れるよう環境整備に努めます。



朝日山から眺める富士山

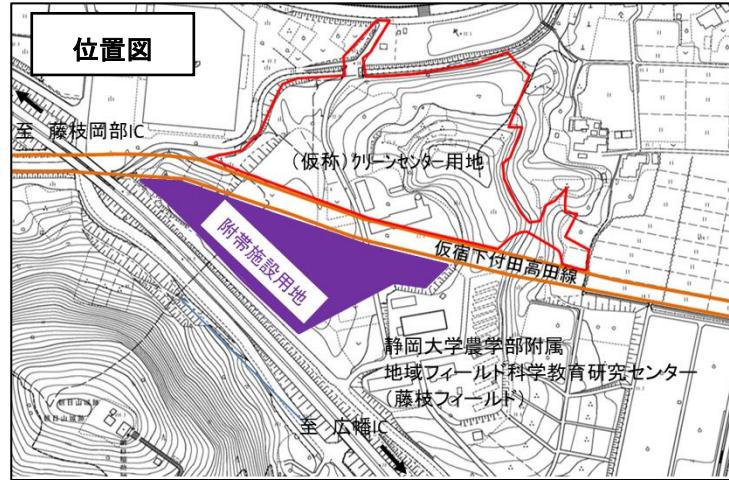


朝日山山頂に鎮座する朝日山稲荷神社

5. 道の駅設置場所

(1) エリアの検討

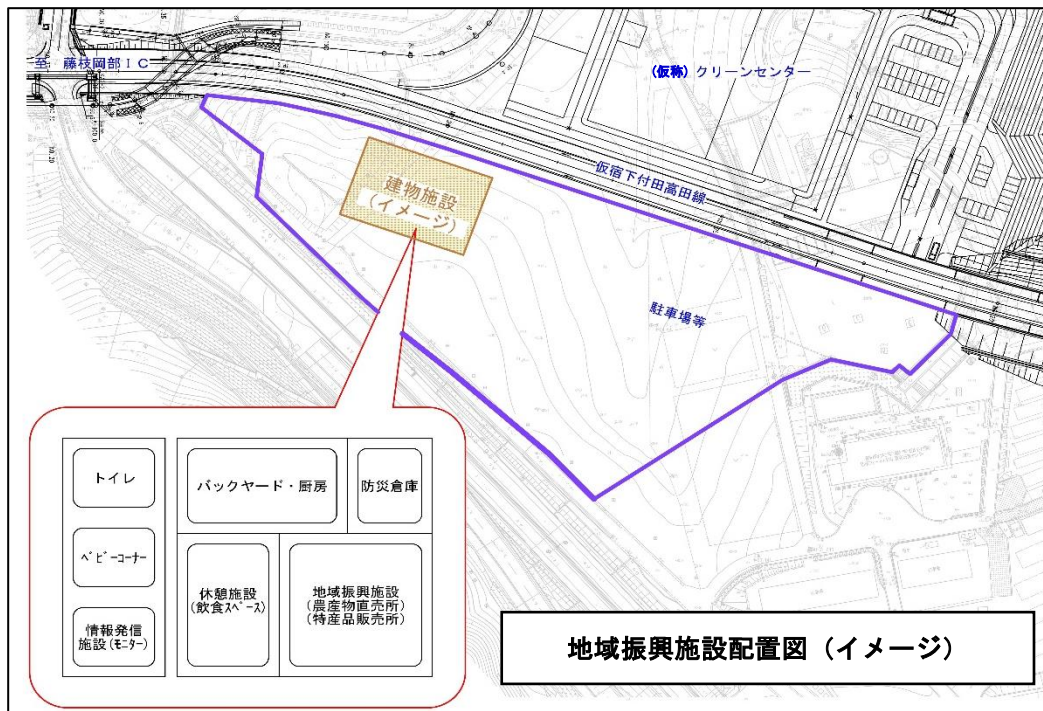
現在整備が進められている（仮称）クリーンセンターに隣接する、附帯施設用地とします。



(2) 施設計画の方向性

施設計画の方向性は、道の駅の目的である「地域振興」と「快適な道路環境の形成」を踏まえ、以下のとおりとします。

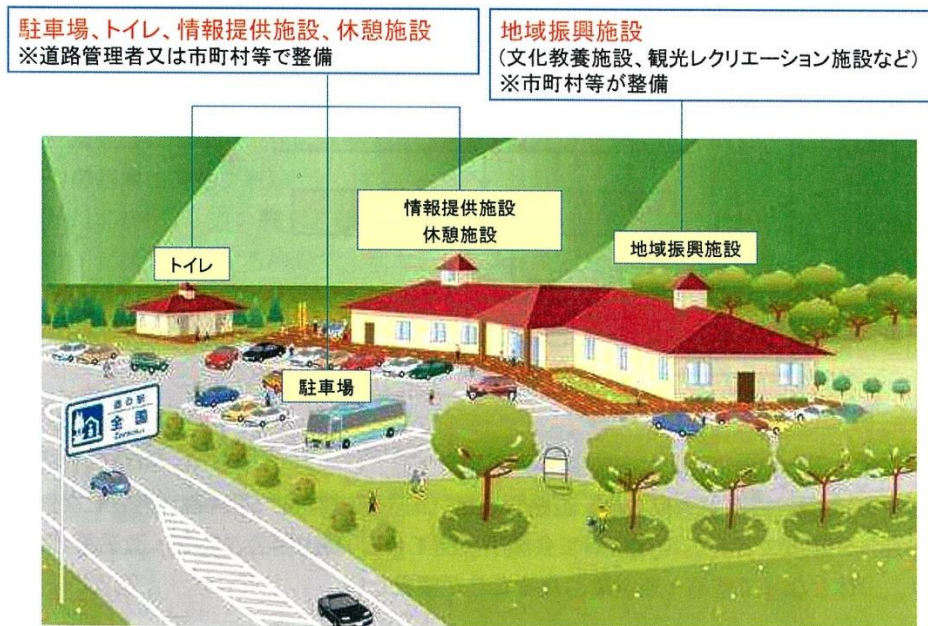
- ・ 交通利便性の向上や広域からの誘客を図るために、市道仮宿下付田高田線や国道1号藤枝バイパスからより円滑にアクセスできる構造を検討します。
- ・ 地域振興施設の各施設は、利用動線等を考慮して配置するとともに、その効用が最大限発揮できるよう整備していきます。
- ・ 道の駅利用者が朝日山城跡をはじめとした多様な地域資源に触れ合えるように、安全を確保した遊歩道等を整備していきます。



6. 道の駅の概要

道の駅は、「道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供」と「地域の振興に寄与」を目的とし、道路利用者のための「休憩機能」、道路利用者や地域の方々のための「情報発信機能」、道の駅をきっかけに“まち”と“まち”が手を結び活力ある地域づくりを共に行うための「地域の連携機能」の3つの機能を併せ持つ、国土交通省により登録された休憩施設です。

令和5年2月時点の全国登録数は、1,204箇所であり、地域の特性にあわせて様々な機能を持ち合わせ、地域の活性化、地域課題の解決に寄与する地域拠点として注目されています。



【道の駅の機能】

※国土交通省ホームページより

「道の駅」の目的

- ・道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供
- ・地域の振興に寄与

「道の駅」の機能

休憩機能

- ・24時間、無料で利用できる駐車場・トイレ

情報発信機能

- ・道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報などを提供

地域連携機能

- ・文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設

「道の駅」の基本コンセプト

地域とともにつくる、個性豊かなにぎわいの場



災害時は、防災機能を発現

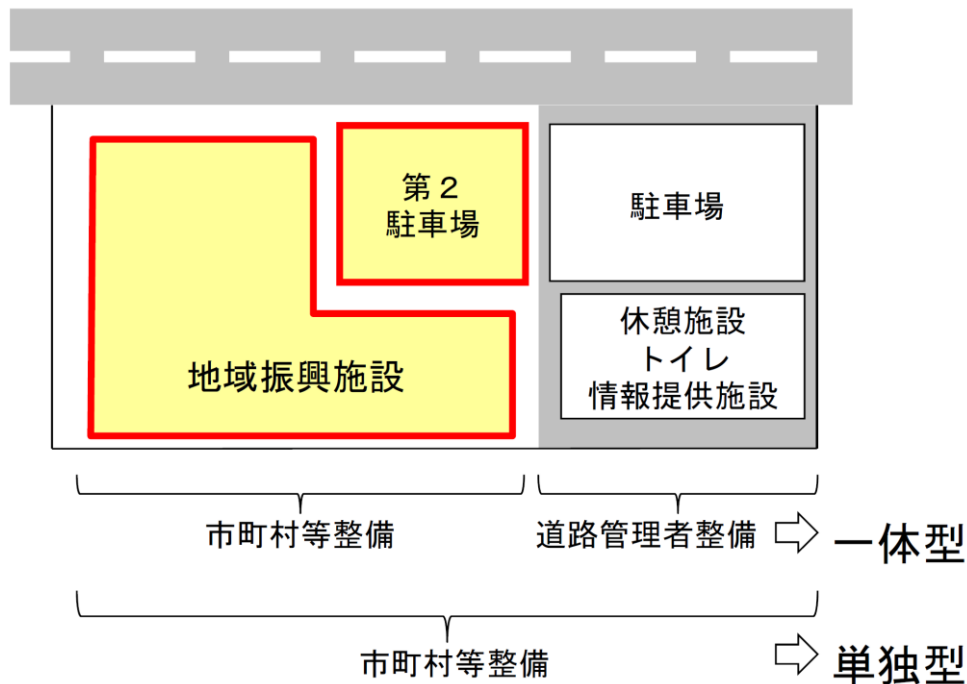
7. 道の駅の整備・管理運営手法

(1) 道の駅の整備主体及び整備手法

道の駅の整備は、道路管理者と市町等との相互協力によって進められるものであるため、その手法は、導入施設の整備を道路管理者、市町等のどちらが行うのかによって、以下のような二つに分類されます。

道の駅の整備に当たっては、道路管理者等の関係機関と連携を図り調整を進めていく必要があります。

【道の駅の整備主体と整備内容】



※国土交通省HPより

整備主体	地方自治体、道路管理者、公益法人等	
整備手法	一体型	単独型
	整備手法	駐車場・トイレ・情報発信施設の一部を道路管理者が整備、その他を設置者（整備主体）が整備を行う
近隣道の駅の整備手法	「宇津ノ谷峠」「玉露の里」「掛川」	「川根温泉」「奥大井音戯の郷」「フォーレなかかわね茶茗館」

（２）管理運営方式**①直営方式（自治体直営）**

自治体が直接「道の駅」の管理運営を行う。

②民間主体の運営方式（業務委託）

自治体が直営で行う業務を、業務ごとに民間事業者に委託して管理運営を行う。

※ただし、DBO方式のように、施設の設計、建設、運営を一括発注する方式もある。

③民間主体の運営方式（指定管理者）

道の駅施設全体の管理運営業務として、自治体が、民間事業者や公共的団体などに施設の管理運営を代行させる。

【道の駅の管理運営手法】

分類	管理運営手法	運営主体
公設公営	自治体直営	自治体
公設民営	業務委託	民間事業者
	指定管理	第3セクター、民間事業者

静岡県内の「道の駅」では、指定管理者制度による第3セクターでの管理運営形態が多く採用されています。

道の駅には、ひと・もの・情報が一元的に集まる機能を活用し、休憩施設、情報発信、地域の活性化、文化芸術の体験学びの場を創るための施設です。このため、道の駅は公益事業・収益事業の両面を持った施設になり、地域の活性化に寄与する施設整備・運営を検討していく上では、地域の参画や連携を図ることが重要です。また持続可能な運営を考えると地域への負担がかかり過ぎない運営方式を検討するとともに、収益性や採算の確保が必要となってくることから、様々なノウハウを持つ民間の活力をできる限り活用することが求められます。

(3) 管理運営主体の比較

下記の管理運営主体の比較を踏まえると、地域との連携により独自性のある事業展開が期待できる「指定管理者（民間企業）」が管理運営手法として有効であると考えられますが、競争性の確保や民間ノウハウの活用、運営コスト縮減などにメリットのある DBO 方式なども視野に入れて、今後具体的に検討していく方針とします。

【管理運営主体の比較】

運営主体	特 徴	課 題
市	<ul style="list-style-type: none"> ・市が主要部分を直接的に運営する組織となる。 ・公益性に優れ、地元との関わりや協力体制を強くすることができる。 ・市の拠点としての性格を持たせることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・駅長などの人的有能性に大きく左右される。 ・企業体としての実績を持たないことから、管理、運営ノウハウの不足や労務管理および財務面でうまく運営できないことがある。 ・定期的な施設の追加投資を確保できるかどうかポイントとなる。
民間事業者 (業務委託)	<ul style="list-style-type: none"> ・市が直営で行う業務を業務ごとに個別に民間主体に委託して管理運営を行う。 ・業務ごとに専門性を活かした管理運営が行える。 ※ DBO 方式を含む。	<ul style="list-style-type: none"> ・業務ごとに委託先が異なることもあり意思の疎通が図りにくい。 ・施設全体の管理運営の責任が曖昧になることがある。 ・収益事業には不向きな面がある。
第3セクター (指定管理者)	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅の運営を目的として、行政と民間企業等の共同出資によって、設立される組織。 ・行政と民間企業等の連携が図りやすく、地域活性化に直接的な効果のある公益的な事業については、高い効果を発揮するものとなる。 ・公共と民間企業等との意思の疎通が図りやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業遂行上、損失が発生した場合には、行政による補填を要することが懸念され、行政負担が継続的に増える場合がある。
民間事業者 (指定管理者)	<ul style="list-style-type: none"> ・民間企業やNPO法人、また各種団体、企業組合などの組織による運営となる。 ・元来の運営経験による、小売や流通などに関する知識・経験を有しており、利用者ニーズに柔軟に対応できる可能性が高い。 ・民間事業の経験を有した経営努力により収益性を期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織によっては、経営を重視することが想定され、サービス機能の融通性に劣ることなどが懸念される。 ・民間事業者によっては、公共性や地元との関わりや協力体制が薄れることがある。